

## まえがき

『ビハーラ・ノート』は、平成8年度から毎年開催されてきた日蓮宗のビハーラ活動に関する講習会の講義内容のエッセンスを収録したものです。

平成2年、当時大きな社会問題としてクローズアップされていた脳死と臓器移植の問題や終末期医療のあり方などの医療と宗教に関する諸問題について検討することを目的として「日蓮宗医療問題研究会」（現「日蓮宗生命倫理研究会」）が発足しました。そこでの研究討議の結果、現代社会の中で、生・老・病・死の苦しみのただなかにある人々にどのような支援の手を差し伸べるべきなのか、日蓮宗徒として具体的な活動に踏み出すべきであるとの共通認識に至り、「お見舞いの手引」（教師用マニュアル、檀信徒用読本、パンフレット）や高齢者向け教化資料「老いてこそ」の作成を行い、福祉関係の教育機関や医療施設、緩和ケア施設、老人保健・福祉施設等の視察研修を経て、平成8年度に第1回の「ビハーラ講座」が開設されました。

当初は試行的な要素も多く、日蓮宗現代宗教研究所の所管事業としてスタートしましたが、初回受講者用カリキュラムと共に、2回目以降の受講者用のカリキュラムを別に設けるなど、2泊3日の盛りだくさんの内容でした。カリキュラムの概要は、1. 仏教とビハーラ（「仏教の生命観とビハーラ精神」等）、2. 日蓮聖人の生命観（「日蓮聖人の生命倫理観」「御遺文に見るビハーラ精神」等）、3. ビハーラ・ホスピス・社会福祉の歴史と現状（「社会福祉の歴史と現状」「ビハーラ活動の歴史と現状」等）、4. カウンセリング入門（「カウンセリング入門－理論と実践」「ビハーラ活動とカウンセリング」等）、5. ビハーラ活動の実際（「病める人への教化」「『千代見草』に聞く看病の心得と臨終行儀」「ビハーラ活動の体験を通して」「海外のビハーラ事情」等）、6. 医学の基礎と臨床（「がん末期のケアのあり方」「終末期における医療と宗教」「お見舞いの基礎知識」「精神疾患の基礎知識」「医療現場におけるビハーラ活動」等）、7. 看護・介護の実際（「身近な事例と介護のポイント」等）、8. グリーフケア（「グリーフケアの理念と実践」等）、9. 実習（「ロールプレイング」「高齢・障害の疑似体験」「普通救命講習」等）、10. その他（「グループ・ディスカッション」等）等々でした。

その後、ビハーラ活動の全国的展開と幅広い参加者を募る意味で、所管が現代宗教研究所から伝道部に移管し、ビハーラ活動の入門的講習を「社会活動講習会」で行い、実践的講習を「ビハーラ活動実践講座」で行うことになって現在にいたっています。

『ビハーラ・ノート』は、これまで15年間積み重ねられてきた講習会のカリキュラムの中で一貫して取り上げられてきた主要な内容のエッセンスを収録したものであり、ご一読いただければ本宗のビハーラ活動を貫く基本理念と、それに基づく実際の活動の在り方がご理解いただけるものと思います。

ビハーラ活動の講習会15周年を記念して、皆さまのお手元にお届けします。

日蓮宗ビハーラ・ネットワーク  
世話人代表 柴田寛彦